



平成30年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年8月9日

上場会社名 AppBank株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6177 URL http://www.appbank.co.jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 宮下 泰明
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 野村 友総 (TEL) 03-6302-0561
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第2四半期の連結業績(平成30年1月1日~平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第2四半期	699	△21.7	△155	—	△157	—	△192	—
29年12月期第2四半期	893	△22.5	△194	—	△197	—	△266	—

(注) 包括利益 30年12月期第2四半期 △214百万円(—%) 29年12月期第2四半期 △266百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第2四半期	△28.55	—
29年12月期第2四半期	△39.90	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年12月期第2四半期	1,069	472	42.9
29年12月期	1,372	616	44.9

(参考) 自己資本 30年12月期第2四半期 459百万円 29年12月期 616百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年12月期	—	0.00	—	—	—
30年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日~平成30年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,450	△20.7	△349	—	△352	—	△382	—	△56.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

期中における重要な子会社の異動に関する注記

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年12月期2Q	6,862,500株	29年12月期	6,798,000株
② 期末自己株式数	30年12月期2Q	15,243株	29年12月期	89,043株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年12月期2Q	6,747,767株	29年12月期2Q	6,669,811株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、平成30年8月30日(木)に機関投資家及びアナリスト向け説明会を開催する予定です。
 四半期決算説明資料については、速やかに当社ホームページに掲載する予定であります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、メディア事業とストア事業の2種のセグメントを軸にビジネス展開しております。

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取りまく経営環境におきまして、当社メディア事業の主たる事業内容であるインターネット広告市場は、月次の売上高が前年同期比110%前後で推移するなど拡大を続けております(注1)。一方、ストア事業の主たる商材に影響のあるスマートフォン端末につきましては、国内出荷台数が前年同期を年初来連続して下回っております(注2)。これに伴い、スマートフォンアクセサリー販売は、市場の成熟化が指摘されるなか飽和が顕在化するなど、厳しい市場環境になっております。

このような環境の下、当社は前事業年度の構造改革による企業体質の強化、既存事業を中心とした業績の回復により、当第2四半期連結累計期間においては、営業損失・経常損失の半減を主たる目標としてまいりました。利益面につきましては損失額は縮小したものの、広告収入の減少、新規事業開発費計上等により目標値には至らず、また売上高も未達成となりました。

当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高699,530千円(前年同期比21.7%減)、営業損失155,536千円(前年同期は営業損失194,956千円)、経常損失157,021千円(前年同期は経常損失197,701千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失192,630千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失266,096千円)となりました。

(注1) 出所：経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」(2018年5月確報版)

(注2) 出所：一般社団法人電子情報技術産業協会「2018年5月携帯電話国内出荷実績」

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部取引高を含んでおります。

(メディア事業)

メディア事業におきましては、サイト運営、スマートフォンアプリの開発・運営、インターネット動画配信、アドネットワーク運営及びこれらと連動する広告枠販売などのビジネスを行っております。

サイト運営では、中核メディアサイト「AppBank.net」、攻略サイト「パズドラ究極攻略」、「モンスター攻略」などを継続して提供する傍ら、仮想通貨配付コンテンツプラットフォーム「@BLAST(アットブラスト)」の提供を開始いたしました。

アプリ運営では、スマートフォンアプリゲーム「POKER×POKER(ポーカーポーカー)」をリリースいたしました。前期の「麻雀ツモツモ」同様に幅広いユーザー層を対象としたアプリであり、リリース後1週間で対戦数が100万回を超える反響がありました。全日本ポーカー選手権を企画する株式会社AJPCとの連携を発表、アプリ内、リアル大会開催等によるポーカーゲームの普及・浸透を通じて、更に多くのユーザーの掘り起こしにつなげてまいります。

動画配信の分野では、「YouTube」及び「niconico」を通じて、「マックスむらいチャンネル」「AppBankTV」等において様々なコンテンツを提供・公開しております。「マックスむらいチャンネル」では、開設5周年を記念して行ったシンガポールロケの動画を多くの視聴者にご覧いただきました。

ゴルフに特化した新感覚メディア「ringolf」は、チャンネル登録者数が堅調に推移、6月には7万人を突破、7月に記念イベントを開催いたしました。ご好評いただいている動画に加えて、ゴルフコンペ開催、アパレル販売等ビジネスの幅を広げております。

営業面では、アドネットワーク分野に関する広告収入が増加した一方で、純広告、広告プラットフォーム事業の不振等により減収となりました。利益面につきましては、製造人件費、販売管理費の削減等により営業損失は縮小(改善)したものの、新規事業の開発費用計上等により当初業績予想を達成するには至りませんでした。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント合計では、売上高は273,477千円(前年同期比31.6%減)、セグメント損失は130,600千円(前年同期はセグメント損失145,640千円)となりました。

(ストア事業)

ストア事業におきましては、「AppBank Store」のEコマースサイト及び店舗においてスマートフォンアクセサリーをはじめとするグッズの販売を行っております。また、スマホユーザーのライフスタイルをより豊かにする

ために、モバイル保険やiPhone修理等のサービスを展開しております。

「AppBank Store Web店」開設5周年を記念するキャンペーンを実施するとともに、顧客ニーズに合った幅広い商品の提供を通じて需要喚起に努めましたが、市場が減速する環境下、当第2四半期連結累計期間におけるEコマースサイト売上は、前年同期を下回りました。

「AppBank Store」常設店舗数は、前事業年度における構造改革の一環として不採算店舗を閉鎖したこと等により、前年の12店舗から6店舗になっております。当第2四半期連結累計期間においては、去年から引き続き営業している店舗については堅調であったものの店舗閉鎖の影響により前年に対して売上高は減少いたしました。

iPhone修理店「Sma-cle」につきましては、6月末時点で常設店4店舗にインショップ展開の3店舗を加えた7店舗でサービスを提供しております。

営業面では、当第2四半期連結累計期間において店舗数減少等により売上高は減少いたしました。利益面では、営業展開中の常設店舗の営業利益確保により営業損失は縮小（改善）したものの、事業セグメント全体の費用を賄うには至りませんでした。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント合計では、売上高は442,161千円（前年同期比14.1%減）、セグメント損失は26,236千円（前年同期はセグメント損失56,756千円）の減収増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は1,069,778千円となり、前連結会計年度末に比べ302,397千円減少いたしました。これは主に、「現金及び預金」が121,401千円減少、「売掛金」が64,062千円減少、「有形固定資産」が42,241千円減少したことによるものであります。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債は597,715千円となり、前連結会計年度末に比べ157,521千円減少いたしました。これは主に、「買掛金」が47,352千円減少、「長期借入金」が79,986千円減少したことによるものであります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は472,063千円となり、前連結会計年度末に比べ144,875千円減少いたしました。これは主に、「親会社株主に帰属する四半期純損失」を192,630千円計上したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は、営業活動による支出が108,284千円、投資活動による収入が73,131千円、財務活動による支出が26,249千円となった結果、前連結会計年度末から61,401千円減少し、803,485千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果支出した資金は108,284千円（前年同期は6,274千円の支出）となりました。主な要因といたしましては、税金等調整前四半期純損失212,008千円の計上、売上債権の減少64,062千円、減損損失の計上54,941千円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果獲得した資金は73,131千円（前年同期は154,653千円の収入）となりました。主な要因といたしましては、敷金及び保証金の回収による収入15,411千円、定期預金の払戻による収入60,000千円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果支出した資金は26,249千円(前年同期は169,970千円の支出)となりました。主な要因といたしましては、長期借入金の返済による支出93,324千円、株式の発行による収入16,125千円、非支配株主からの払込みによる収入32,500千円、自己株式の処分による収入18,450千円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年12月期の通期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ平成30年2月14日に公表いたしました業績予想を変更しております。詳細につきましては、本日公表の「平成30年12月期第2四半期(累計)連結業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正並びに固定資産の減損損失計上に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	924,886	803,485
売掛金	169,477	105,415
商品	78,508	60,581
原材料及び貯蔵品	3,460	3,390
その他	49,989	27,644
流動資産合計	1,226,322	1,000,517
固定資産		
有形固定資産	42,241	—
無形固定資産	30,170	—
投資その他の資産		
投資有価証券	29,999	29,999
長期未収入金	148,691	148,061
その他	43,441	39,261
貸倒引当金	△148,691	△148,061
投資その他の資産合計	73,441	69,261
固定資産合計	145,853	69,261
資産合計	1,372,176	1,069,778
負債の部		
流動負債		
買掛金	97,795	50,442
1年内返済予定の長期借入金	182,434	169,096
資産除去債務	1,619	—
未払法人税等	5,683	2,253
その他	110,174	98,367
流動負債合計	397,706	320,158
固定負債		
長期借入金	343,411	263,425
資産除去債務	14,119	14,131
固定負債合計	357,530	277,556
負債合計	755,237	597,715
純資産の部		
株主資本		
資本金	99,850	108,106
資本剰余金	312,721	337,140
利益剰余金	207,002	14,371
自己株式	△3,493	△598
株主資本合計	616,080	459,019
新株予約権	858	3,006
非支配株主持分	—	10,036
純資産合計	616,938	472,063
負債純資産合計	1,372,176	1,069,778

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
売上高	893,938	699,530
売上原価	609,549	450,238
売上総利益	284,389	249,291
販売費及び一般管理費	479,345	404,828
営業損失(△)	△194,956	△155,536
営業外収益		
受取利息	228	44
還付加算金	1,398	186
貸倒引当金戻入額	—	630
雑収入	311	248
営業外収益合計	1,938	1,109
営業外費用		
支払利息	3,732	2,245
雑損失	951	349
営業外費用合計	4,683	2,594
経常損失(△)	△197,701	△157,021
特別利益		
新株予約権戻入益	25	9
固定資産売却益	—	500
特別利益合計	25	509
特別損失		
減損損失	28,904	54,941
固定資産売却損	—	189
固定資産除却損	—	365
賃貸借契約解約損	23,796	—
特別損失合計	52,701	55,496
税金等調整前四半期純損失(△)	△250,378	△212,008
法人税、住民税及び事業税	1,496	1,756
法人税等調整額	14,222	1,089
法人税等合計	15,718	2,846
四半期純損失(△)	△266,096	△214,854
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△22,224
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△266,096	△192,630

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
四半期純損失(△)	△266,096	△214,854
四半期包括利益	△266,096	△214,854
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△266,096	△192,630
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△22,224

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△250,378	△212,008
減価償却費	9,874	10,344
減損損失	28,904	54,941
貸倒引当金の増減額(△は減少)	—	△630
受取利息及び受取配当金	△228	△44
支払利息	3,732	2,245
固定資産売却損益(△は益)	—	△310
固定資産除却損	—	365
新株予約権戻入益	△25	△9
賃貸借契約解約損	23,796	—
売上債権の増減額(△は増加)	91,458	64,062
たな卸資産の増減額(△は増加)	△15,918	17,996
仕入債務の増減額(△は減少)	△23,781	△47,352
未払金の増減額(△は減少)	24,633	368
未払費用の増減額(△は減少)	△26,188	△19,546
前受金の増減額(△は減少)	△2,700	—
その他	12,314	25,642
小計	△124,505	△103,937
利息及び配当金の受取額	228	44
利息の支払額	△3,852	△2,233
法人税等の支払額	△794	△6,447
法人税等の還付額	122,649	4,288
営業活動によるキャッシュ・フロー	△6,274	△108,284
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△11,026	△224
有形固定資産の売却による収入	—	5,501
無形固定資産の取得による支出	△21,142	—
資産除去債務の履行による支出	—	△1,984
投資有価証券の取得による支出	△50,112	—
敷金及び保証金の回収による収入	—	15,411
敷金保証金の差入による支出	△1,265	△5,572
定期預金の預入による支出	△20,000	—
定期預金の払戻による収入	258,200	60,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	154,653	73,131
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△182,495	△93,324
株式の発行による収入	—	16,125
非支配株主からの払込みによる収入	—	32,500
自己株式の処分による収入	12,525	18,450
財務活動によるキャッシュ・フロー	△169,970	△26,249
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△21,590	△61,401
現金及び現金同等物の期首残高	1,166,545	864,886
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,144,955	803,485

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	メディア事業	ストア事業			
売上高					
外部顧客への売上高	397,645	496,292	893,938	—	893,938
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,062	18,218	20,281	△20,281	—
計	399,708	514,511	914,220	△20,281	893,938
セグメント損失(△)	△145,640	△56,756	△202,396	7,440	△194,956

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額7,440千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「メディア事業」において、本社移転を決定したことに伴い、本社資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては12,137千円であります。

また、「ストア事業」において、閉店が決定した店舗の固定資産について減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては16,767千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年1月1日 至 平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	メディア事業	ストア事業			
売上高					
外部顧客への売上高	272,450	427,080	699,530	—	699,530
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,027	15,080	16,108	△16,108	—
計	273,477	442,161	715,638	△16,108	699,530
セグメント損失(△)	△130,600	△26,236	△156,836	1,300	△155,536

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額1,300千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「メディア事業」において、本社固定資産の減損損失16,790千円を計上しております。

「ストア事業」において、店舗及び共用資産について減損損失38,151千円を計上しております。